



カケハシ・プロジェクト（米国）高校生招へい第4陣 （Davis Senior HS, Smoky Hill HS, Harvest Christian Academy）の記録

1. プログラム概要

【目的】米国の高校生が、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などについて理解を深めるとともに、日本の関係各所との交流を行い、高校生の立場から日本の魅力を積極的に対外発信してもらうことを主目的として実施しました。

本プログラムでは、カリフォルニア州の Davis Senior High School, コロラド州の Smoky Hill High School, グアム準州の Harvest Christian Academy の高校生が来日し、岩手県と沖縄県でのホームステイや学校交流、視察等を通じて日本文化や社会、歴史について理解を深めました。

【参加者】米国の高校生及び引率者 計 24 名

カリフォルニア州 Davis Senior High School の生徒及び引率者 8 名

コロラド州 Smoky Hill High School の生徒及び引率者 8 名

グアム準州 Harvest Christian Academy の生徒及び引率者 8 名

【訪問地】グループ A（Smoky Hill High School, Harvest Christian Academy）：東京都、岩手県

グループ B（Davis Senior High School）：東京都、沖縄県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

11 月 16 日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等

来日までの指定期間 【動画視聴】講義「日本と国連」、日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

11 月 21 日（火曜日） 成田国際空港より入国

【オリエンテーション】

11 月 22 日（水曜日） 【視察・体験】浜離宮恩賜庭園 抹茶体験

【視察】千葉工業大学スカイツリー®タウンキャンパス

【視察】Kawasaki Robostage（ロボットショールーム）

11 月 23 日（木曜日）～26 日（日曜日）

2 つのグループに分かれ、グループ A は岩手県、グループ B は沖縄県を訪問。

A グループ（Smoky Hill High School, Harvest Christian Academy）：岩手県

【市内視察】陸前高田市 語り部バスガイド

【表敬訪問】 陸前高田市役所 陸前高田市長 佐々木 拓 氏
【交流】 長洞元気村：ワカメの芯抜き体験、防災クロスロードゲーム
【視察】 いわて TSUNAMI メモリアル（東日本大震災津波伝承館）、高田松原津波復興祈念公園
【交流】 アイスブレイク、訪日団学校紹介、地域の方々による日本の生活紹介、交流
【企業講話】 陸前高田しみんエネルギー株式会社 総合企画部 部長 大林 孝典 氏
「カーボンニュートラル／エネルギー循環に向けた取り組みの紹介」
【視察】 ワタミオーガニックランド
【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

B グループ（Davis Senior High School）：沖縄県

【視察】 首里城
【文化体験】 空手
【学校交流】 沖縄県立美来工科高等学校
【ホストファミリー対面式】
【ホームステイ】 2 家庭（ちゅらむら読谷）
【ホストファミリー歓送会】
【視察】 ナチュラルブルー 海洋環境学習、ビーチクリーン
【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

11 月 27 日（月曜日） A グループは岩手県から東京都へ移動、B グループは沖縄県から東京都へ移動

【視察】 明治神宮、原宿（日本のポップカルチャー）

11 月 28 日（火曜日） **【報告会】** 訪日成果・帰国後の活動計画発表
成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
11 月 22 日 【視察・体験】 浜離宮恩賜庭園 抹茶体験	11 月 22 日 【視察・体験】 浜離宮恩賜庭園 記念撮影

	
11月22日【視察】千葉工業大学スカイツリー® タウンキャンパス	11月22日【視察】Kawasaki Robostage

A グループ (Smoky Hill High School, Harvest Christian Academy)

	
11月23日【市内視察】陸前高田市 語り部バスガイド	11月24日【表敬訪問】陸前高田市役所 陸前高田市長 佐々木 拓 氏
	
11月24日【交流】長洞元気村:ワカメの芯抜き体験、防災クロスロードゲーム	11月25日【視察】高田松原津波復興祈念公園

	
11月25日【交流】アイスブレイク、訪日団学校紹介、地域の方々による日本の生活紹介、交流	11月26日【企業講話】陸前高田しみんエネルギー株式会社 総合企画部 部長 大林 孝典 氏
	
11月26日【視察】ワタミオーガニックランド	11月26日【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

B グループ（Davis Senior High School）

	
11月23日【視察】首里城	11月24日【文化体験】空手

	
11月24日【学校交流】沖縄県立美来工科高等学校	11月25日【ホームステイ】
	
11月26日【ホストファミリー歓送会】	11月26日【視察】ナチュラルブルー 海洋環境学習、ビーチクリーン
	
11月27日【視察】明治神宮	11月28日【報告会】記念撮影

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

ホストファミリーはとても親切で、素晴らしい料理をたくさん作ってくれました。特に、紅芋とサーターアンダギーは初めての体験でした。日本人の生活にできるだけ近い体験ができたことは非常に楽しかったです。ホストファミリーは私に沖縄の歴史、文化について教えてくれました。私たちは一緒に歴史的な場所やユンタンザミュージアムへ行きました。また、三線を弾き、沖縄の伝統衣装を着ることができました。沖縄県立美来工科高等学校の生徒の皆さんは、大変

フレンドリーで社交的でした。彼らは私たちを大歓迎してくれました。学校交流の時間がもっとあれば良かったと思うほど、彼らと過ごした時間はこのプログラムの中で最も印象的でした。海洋環境学習では、どのように海洋保護をするべきかを学びました。多くの人々がこのような学習経験を持つことで、海洋環境が改善されることを願っています。私たちはまた、沖縄空手に関する知識を深めることができました。例えば、その背景にある哲学、使用する武器、歴史、教えることの重要性など様々な側面から学びました。そして、実際に自分たちで沖縄空手を体験することができました。

◆ 高校生

最も印象的な体験は、ホストファミリーとの交流でした。ホストファミリーと実際に交流することで、沖縄の文化や歴史について多くのことを学びました。彼らは大変聞き上手で、私が伝えたいことを理解しようと耳を傾け、知らない単語を手助けしてくれました。また、私が理解しやすいように簡単な単語を使い、難しい単語はよりシンプルな言葉を用いて説明してくれました。ホストファミリーとの交流は本当に楽しい経験でした。なぜなら、彼らの言葉を理解し、それに応えることができたからです。ホストファミリーのおかげで、沖縄・琉球の歴史だけではなく、沖縄の文化、習慣、料理についても多くを学びました。ホストファミリーとの対話のおかげで私のスピーキング能力は確実に上達しました。

◆ 高校生

最も印象的だったのは、津波で破壊された学校を訪れた時のことです。多くの瓦礫の中に、赤ちゃんの靴や小さなテディーベアがひと際目立っていました。どれだけ多くの方が苦しみ涙したのだろうと考えると心が痛みます。しかし、幸いにも、その学校の生徒はすべて避難できたと聞き、とても安心しました。すべての犠牲者の方々へ、心からのお悔やみを申し上げます。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

喜んでいただけて大変うれしく思います。このような機会をありがとうございます。

◆ 学校交流先

両校の生徒達が、それぞれ学んでいる言語を使用し、積極的にコミュニケーションを図り、意思疎通ができた時の笑顔が印象的でした。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	2023 年 11 月 24 日（Instagram） 陸前高田市 4 日目：本日、陸前高田市長を表敬訪問しました。市長との会話は素晴らしく、このような経験ができたことを光栄に思います。その後、私たちは市内にある津波についての展示を見ました。そこには一本松についてのアートがたくさんありました。それは津波に打ち勝ち、そのままの状態で見事に立ち続けた一本の松でした。すばらしい！そこには岩手の美しい絵画や大変古い松の幹もありました。
	
2023 年 11 月 24 日（Instagram） 陸前高田市 2 日目：本日、私たちは佐々木市長に会うために市役所を訪れました。そして、いくつかの統計資料を見せていただき地域における復旧作業がどのように進んだのか学びました。おおよその数字ですが、8,000 もの家屋が津波によって破壊されました。さらに、低地にあった市の中心部や全ての学校は海へ流されました。市全体では 2,000 人を超える死者が出て、そのほとんどが内陸の住宅地の人達でした。津波の水位は 35 メートルにまで達し、内陸 18 キロメートルまで到達しました。市の経済はほとんど破綻寸前でした。津波前は 24,000 人ほどいた人口が、今はまだ 17,500 人程度です。 希望に満ちた側面にも触れたいと思います。陸前高田の復興は様々な形で進んでいます。例えば、大規模プロジェクトが挙げられます。近くの山を掘削した土砂を運ぶために巨大なコンベヤーベルトを活用し、300 メートル先の土砂でかさ上げして造成した土地に市の中心部を整備しました。このコンベヤーベルトや資材、その他の援助物資等は、現地の人々が自分たちで調達することができない場合、アメリカから提供されました。時間が経つにつれて、地域は復興しつつあります。避難していた住民だけでなく現地の漁業関係者の大部分も戻って来ています。しかし、再開したのは市街地のごく一部の事業だけで、その多くは経営者を失ったか、別の場所に移ってしまいました。 市役所には地震や街に関する小さなミュージアムがあり、そこでは津波で被害を受ける前の市がどのようなだったか、2022 年と比べて見るができます。また、そこで市のシンボル『希望の一	

本松』について知りました。それは何千本という海岸の松のなかで唯一生き残った松の木です。住民の皆さんが辛く落ち込んでいた時に、希望を与えた松です。一本の松が津波に打ち勝つことができるなら、住民もきっと打ち勝つことができるでしょう。その松は樹齢 155～160 年で寿命が尽きましたが、複製が現在も同じ場所に立っています。画像は記念碑で、津波で亡くなった市職員の方を悼むものです。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、沖縄県

Davis Senior High School													
 Kakehashi Group B Action Plan and excursions Made by the students of Davis Senior High School	 <table border="1"> <caption>Action Plan 4</caption> <thead> <tr> <th>What</th> <th>Why</th> <th>How</th> <th>By Who</th> <th>For Who</th> <th>When</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>World Language Fair</td> <td>Share and learn about Japanese culture and Okinawa culture</td> <td>Presentation</td> <td>Presented by us</td> <td>Participants of the event Residents of the town and international people</td> <td>February 2nd, 2024</td> </tr> </tbody> </table> Karate - History - History of twentieth century - Philosophy, positive outlook and respect - Long practiced martial art - Steeped in tradition	What	Why	How	By Who	For Who	When	World Language Fair	Share and learn about Japanese culture and Okinawa culture	Presentation	Presented by us	Participants of the event Residents of the town and international people	February 2nd, 2024
What	Why	How	By Who	For Who	When								
World Language Fair	Share and learn about Japanese culture and Okinawa culture	Presentation	Presented by us	Participants of the event Residents of the town and international people	February 2nd, 2024								
【訪日中の学び】 ● 沖縄の歴史や空手の行動規範、日本の最新技術まで視察や見学を通して知ることができました。 ● 学校交流で日本とアメリカの教育制度や普段の授業の違いについて知ることができました。同様にホームステイを通して、日本文化についてより深く理解し、日本人の日常生活を垣間見ることができました。 ● サンゴ礁が占める一帯が限られているにも関わらず、海洋生物の 3 割以上にとってかけがえない存在であると初めて知りました。そして海洋保護において重要なのが、現状について多くの人に知ってもらい、そして悪い環境を少しでも良くしていく努力（ビーチクリーン活動等）が必要と知りました。 【アクション・プラン】 ① 日本語を学んでいる生徒向けに日本での経験を共有し、今まで以上に日本語と日本文化について興味を深めてもらいます。 ② 放課後行われているユースプログラム（Davis Kids Club, Child Development Center）でプレゼンテーションをします。特に日本文化について、青少年により多くの文化について知ってもらうきっかけを作ります。 ③ 学内新聞やニュースビデオを通してカケハシ・プロジェクトの経験を記事や写真等で共有します。読者や閲覧者が日本に興味を持ち、日本を訪れたいという気持ちになってもらえるようにします。 ④ 高校の世界言語フェア（異文化に対する理解と認識を広めるイベント）で発表を行います。（2024 年 2 月 3 日）また、学校に限らず、近隣住民にも日本を紹介することで、より多くの人に日本と日本文化を広めます。老若男女を問わず、日本と米国の文化について深く理解してもらいます。													

訪問地：東京都、岩手県

Smoky Hill High School



Japan Trip + Recovery from Natural Disasters
Following the journey in Tokyo and Fukushima

Science and Technology

- The upper extent of technology in Japan is higher than the U.S., especially in robotics and transportation.
- There is more incorporation of tech in daily life, such as with subways, sensors, and solar panels.
- Science is presented in such a way that it is more accessible to the general population.

Action Plan

School Action Plan: World Awareness

- World Awareness: Cultural presentations in front of school to students on specific days before Spring Break
- We present our slideshow as one of the segments in World Awareness to show trip information from Japan
- 2400 students in our school

Community Action Plan: Library Presentation

- Reserve library room for a planned date
- Put out fliers in stores, school, and street posts with information
- Present slideshow to community members
- Write an article for school newsletter

【訪日中の学び】

日本の技術は非常に発展しており、日常生活において欠かせないものとなっています（地下鉄、エスカレーターの自動センサー、太陽光パネル等）。車以外の交通手段や公共交通機関が豊富で、人々の健康にも繋がっていると感じました。同時に環境に配慮した取り組みも多く、すべての面において効率的な国です。和食の献立も健康を第一に考えているものが多く、米国も見習うべきだと感じました。2011年の地震と津波の被害についても当事者に話を聞いただけではなく、被災地に住む人々の考えや復興に関する取組等についての知識も多く得られました。決して過去を忘れず、未来に立ち向かう人々の姿に感動しました。

【アクション・プラン】

① 学校において

春休みに入る前に、World Awareness（世界の知識を知る日）に合わせて参加者それぞれが日本文化についてのプレゼン等を生徒 2400 人向けに行います。

② 住民向けプレゼン（図書館にて）

図書館の部屋を予約し、学校の新聞で宣伝や街中にチラシを配布し、少しでも多くの人にカケハシ・プロジェクトで得た経験を共有する場を設けます。

③ 日米協会のインタビュー

日本で得た経験や気付きについて日米協会にインタビューを受け、その内容がホームページ等で公表される予定です。

訪問地：東京都、岩手県

Harvest Christian Academy



Kakehashi Program Presentation
November 18, 2022 Harvest Christian Academy

Food

- Vending machines as a popular way to get food and drinks
- Popularity and quality of convenience stores
- Lots of cold food
- Emphasis on seafood

Junior High Chapel Presentation

- Who: Wilson, Troy, Olivia
- To whom: Harvest Junior High
- When: January
- Where: Chapel
- How: Presentation of what we learn in Japanese class and why they should learn Japanese (communicating with Japanese tourists/vendors, communicating while in Japan, visiting Japan through various programs, etc.)

【訪日中の学び】

- 日本は大都会だけでなく、小さな町や村、そして美しい自然がある国です。また、人々も親切で常に敬意を払います。
- 和食は幅広く、想像していた以上に魚が頻繁に食卓に並びます。コンビニは品揃えが多く、自

動販売機では温かい飲み物が購入できるため、素晴らしいと感じました。

- 復興において日本の強靱さは世界でトップレベルです。陸前高田市から 2 年かけてカリフォルニアのクレセント市に流れ着いた小船があり、それがきっかけで姉妹都市関係になった話に感動しました。

【アクション・プラン】

発表を通して日本での経験を共有するとともに、特に災害時の国際協力の必要性について訴えます。

- ① 参加者全員で学校の日本語クラスに、日本での経験及び日本語学習の目標や動機を共有します。
- ② 高校に進学する中学生向けにプレゼンテーションをして、高校で日本語クラスに入るきっかけを作ります。

グアムには多くの日本人観光客だけではなく、日本人居住者がいます。そのため、日本語を学ぶことは自身にとってだけではなく、グアムとグアムを訪れる日本人にとって有益です。若い時に日本語に触れることは、今回の私たちのようにカケハシ・プロジェクトに参加するきっかけ作りになるだけではなく、日本に行ってもきっと役に立ちます。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）